

平成18年11月28日

「学勢調査 2005」について

工学部教育企画室

膨大な作業を伴う調査を実施され、短期間でまとめられたことに敬意を表します。関係者の皆様ならびに学勢調査サポーターを務められた学生諸君に御礼申し上げます。

工学部では、各学科で本調査内容について議論するとともに、工学部代議員会・教育委員会ならびに教育企画室においても、調査結果について意見交換を行いました。本調査結果を今後の教育改善に何らかの形で反映させて行きたいと考えております。

生活基盤、学習状況、キャンパスライフに関しての調査データは、学生の現状を知る上で参考になりました。また、学習意欲向上のためには、演習・実習を増やすことや授業の意義を明確に伝える、授業内容を改善することなどが大切であるとの指摘は、私たちも同様に現状を捉えています。現在、多くの学科では、様々な観点からの検討も加えてカリキュラム改訂、講義内容の改訂を進めています。

教員の教育力向上に関しては、工学部では、毎年FD研修会(ファカルティーデベロップメント:教員の教育研修)を12月の2日間で開催しており、本年度は9回目となります。昨年度の報告は東工大クロニクルNo.407にしておりますので、学勢調査サポーターの学生諸君はじめ一般学生諸君もこれらを一読され、ご意見があれば是非、工学部までお寄せいただきたいと思っております。また、本年のFD研修会においても教育改善について討議することを予定しています。

施設関係についてですが、建物によっては調査結果のように一日も早い対策が必要であることは、私達も同様に捉えておりまして、関係方面に働きかけをしております。予算の制約があることから厳しい現状ですが、関係者への働きかけは継続して行きたいと考えております。特に学部学生にとって居場所となる施設やスペースが不足している点について、従前より認識しており、リフレッシュルームを設置するなどの改善を図ってきておりますが、未だ十分ではないことは承知しております。また、ロッカースペースなどは比較的容易に実現可能ではないかとの要望についてですが、実際には学部教育のために学科に与えられているスペースには限りがあること、学科に配分されている予算は現状の教育をようやく維持できる程度のものであることから、PC環境の整備を含めて、工学部だけでは実現するのが予算的、スペース的に困難な状況にあります。本学勢調査 2005 の内容を踏まえて、大学として対応していただくことを工学部としてもお願いしたいと考えております。

最後になりますが、教育推進室におかれましては、このような有意義な調査を継続して進められることをお願い申し上げますとともに、将来的にはまとまった成果として総括することをご期待申し上げます。